

ヨハネ——主は恵み深い

詩編 118 : 1

2023/11/05 諸聖徒日 上野聖ヨハネ教会 墓地礼拝

今日は諸聖徒日として墓地礼拝を行っています。わたしたちは今日、諸聖徒また教会の先輩を記念するのですが、特にこの上野聖ヨハネ教会の名前である「ヨハネ」を心にとめたいと思います。

ヨハネとは「主は恵み深い」という意味です。聖書、ことに詩編には「恵み深い主に感謝せよ、慈しみはとこしえに」という言葉が何度も出て来ます（詩編 118:1 ほか）。

新約聖書の中にヨハネが出て来ます。彼らはわたしたちの信仰の先輩であって、「主は恵み深い」という事実を伝えてくれています。「彼ら」と言いましたが、少なくとも新約聖書にヨハネは3人いるのです。

第1のヨハネは、洗礼者ヨハネです。彼はその生涯をとおして救い主イエスを指し示しました。

第2のヨハネは、福音記者使徒ヨハネ、イエスの愛弟子です。彼こそは「主は恵み深い」という事実をわたしたちに伝えてくれています。

第3のヨハネは、ヨハネの黙示録に出てくる長老ヨハネ。天上の礼拝の様子をわたしたちに示してくれる人です。

これら聖書の中の3人のヨハネに加えて、もう一人のヨハネを記念しましょう。4世紀の教会の重要な指導者で、ヨアンネス・クリュソストモス（347?~407）という人です。「ヨアンネス」とはヨハネのことです。

ヨアンネス・クリュソストモスは、若いとき荒野で6年間の修道生活を送った後に、シリアのアンティオキアで司祭となりました。彼の生活態度と説教は多くの人々を引きつけました。あるとき、アンティオキアの市民たちが時のローマ皇帝の重税に憤って暴動を起こしました。皇帝の銅像を引き倒して市内を引き回し、その他さまざまな暴虐行為をなしました。これに激怒した皇帝は、アンティオキアの町を破壊すると宣言しました。アンティオキアの人々は恐怖と混乱に陥りました。この時、ヨアンネスは連続で説教を行って、人々の恐怖と混乱を静めたのです。

名声を得たヨアンネスは、やがてローマ帝国の首都コンスタンティノポリスに移され、強制的にコンスタンティノポリス総主教に叙任されてしまいました。彼は、神を恐れて質

素に暮らす信仰の道を説き、貴族や大金持ちを厳しく批判しました。その説教の影響力は非常に大きく、「彼の口は金の口」だと評判が立ちました。ヨアンネス・クリュソストモスの「クリュソストモス」とは「黄金の口」という意味で、人々の評判が後に彼の呼び名になったのです。

しかし彼を妬む人、憎む人たちが力を結集しました。彼はイースター前夜の礼拝の最中、皇帝の軍隊に逮捕され、流刑となりました。アルメニアのククソスへ、さらに遠く北のコーカサスの山中へと追放されます。3 ヶ月の徒歩の旅の途中、老いて衰弱した彼は、ある礼拝堂で生涯を閉じました。およそ 60 歳でした。

ヨアンネス・クリュソストモスは優れた聖書講解説教を残し、また後の礼拝にも重要な影響を与えました。

今日は 4 人のヨハネを記憶しました。神さまは聖書の中のヨハネを、また歴史の中のヨハネを大切に覚えていてくださると同時に、わたしたちのヨハネ教会を、それにつながるすべての人々を覚えていてくださいます。

ヨハネ——主は恵み深い。そのことを心に深くとめていきましょう。